

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	新潟リハビリテーション大学
設置者名	学校法人北都健勝学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
医療学部	リハビリテーション学科	夜・通信	25			25	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="https://nur.ac.jp/kikanyoken/">https://nur.ac.jp/kikanyoken/</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	新潟リハビリテーション大学
設置者名	学校法人北都健勝学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://nur.ac.jp/kikanyoken/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	2018.4.1～ 2021.3.31	経営計画の策定
非常勤	会社役員 商工会議所会頭	2018.4.1～ 2021.3.31	地域連携
(備考) その他 外部理事1名（非常勤 元会社役員 2018.4.1-2021.3.31 組織運営）			

式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	新潟リハビリテーション大学
設置者名	学校法人北都健勝学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) シラバスについては、本学学部教務委員会が作成した「シラバス作成マニュアル」に基づき、授業の方法、授業の内容、年間の授業の計画、到達目標、成績評価の方法・基準、授業時間時間外に必要な学習の内容等について、科目担当教員が作成している。また、実務経験のある教員等による授業科目については、その旨も記載している。 作成後のシラバスデータは、システムの年度更新時(3月末)に、学内者のみが閲覧可能なポータルサイト上で公開するのみならず、広く一般の方々が閲覧可能な本学ホームページ上のサイトで公表している。	
授業計画書の公表方法	<a href="https://nur.ac.jp/kikanyoken/">https://nur.ac.jp/kikanyoken/</a>
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 授業科目の学修成果の評価については、「取り組む力・知識」、「思考・推論・創造の力」、「コラボレーションとリーダーシップ」、「発表力」、「学修に取り組む姿勢」の5つの評価指標を軸に、試験、レポート、成果発表等、あらかじめシラバスにて明示した評価方法・基準にて、科目担当教員が行っており、その結果をもって単位の授与・履修の認定を行っている。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学学則及び履修規程により、授業科目の成績は、次の基準により判定し、評価およびポイントを設定している。

	点数区分	判定	評価	ポイント
(1)	90点以上	合格	+A	4点
(2)	80点以上90点未満	合格	A	3点
(3)	70点以上80点未満	合格	B	2点
(4)	60点以上70点未満	合格	C	1点
(5)	60点未満	不合格	D	0点

上記のポイントをもとに、下記算出式に基づいて履修科目のアベレージ(GPA)を算出し、学期毎に総合成績評価を行っている。

[GPA算出式]

<期別GPA>

$$\frac{(\text{当該学期に評価を受けた科目で得たポイント}) \times (\text{当該科目の単位数}) \text{の合計}}{\text{当該学期に評価を受けた科目の単位数の合計}}$$

<通算GPA>

$$\frac{(\text{当該年度に評価を受けた科目で得たポイント}) \times (\text{当該科目の単位数}) \text{の合計}}{\text{当該年度に評価を受けた科目の単位数の合計}}$$

なお、成績基準やGPA算出式等については、本学ホームページにて公表している。

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

<https://nur.ac.jp/kikanyoken/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業認定・学位授与の方針については、本学ホームページにて公開している。

卒業認定については、最終年次に修得単位数を学部教務委員会・教授会にて確認し、卒業要件単位数を満たしている者について、学長が卒業を認定している。

[卒業認定・学位授与の方針]

<理学療法学専攻>

1. 理学療法士として高い倫理観と持ち、医療従事者としての使命感を自覚し、常に対象者に寄り添うことができるもの。
2. 理学療法士として必要な知識・技術を有し、卒後も常に専門領域の向上と発展に惜しみなく努力を続け、他職種と協働しながら地域の医療・福祉に貢献できるもの。
3. 理学療法士として常に探求を続け、国際的・学術的な視点で理学療法の発展に寄与できるもの。

<作業療法学専攻>

1. 作業療法士として高い倫理観を持ち、医療従事者としての使命感を自覚し、対象者の想いに寄り添いながら、対象者にとって意味のある作業を賦活することのできるもの。
2. 作業療法士として対象者をめぐる他職種と協業しながら対象者の地域生活を

支え、地域社会に貢献することのできるもの。

3. 作業療法士として必要な知識・技術を有し、卒業後も作業療法へのあくなき探究を続け、国際的・学術的な視点を持ち、作業療法の発展に寄与できるもの。

#### <言語聴覚学専攻>

1. 言語聴覚士として確実な知識と技術、判断力などの能力を身に付けるために今後も努力を続ける十分な意欲がある。
2. 言語聴覚士としての専門領域及び関連する領域の知識・技術の向上や医療の発展に惜しみない努力をして、自己研鑽と言語聴覚学分野の発展及び社会貢献の意識を高く持つ。
3. 医療人、言語聴覚士として、人間とかがわる職業の特殊性と重要性に真摯に向き合っている。すなわち人間の尊厳に対する高い倫理観と豊かな感性、広い視野と温かな心を持ち患者様に寄り添うことができる。

#### <リハビリテーション心理学専攻>

1. 社会人として高い倫理観をもち、他者と自己とのかかわりを自覚し、人間の心に対する深い理解をもって他者に寄り添うことができるもの。
2. 学修してきた心理学的知識・技術を有し、人間が抱える心の諸課題に対し最善の方策を講ずるべく誠意をもって努力し、地域社会へ貢献できるもの。
3. 人間の心と行動について生涯探求し、国際的・学術的な視点で心理学の応用と発展に寄与できるもの。

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

<https://nur.ac.jp/examination/admission/#p1>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	新潟リハビリテーション大学
設置者名	学校法人北都健勝学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://nur.ac.jp/kikanyoken/">https://nur.ac.jp/kikanyoken/</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://nur.ac.jp/kikanyoken/">https://nur.ac.jp/kikanyoken/</a>
財産目録	<a href="https://nur.ac.jp/kikanyoken/">https://nur.ac.jp/kikanyoken/</a>
事業報告書	<a href="https://nur.ac.jp/kikanyoken/">https://nur.ac.jp/kikanyoken/</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://nur.ac.jp/kikanyoken/">https://nur.ac.jp/kikanyoken/</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画 (名称: 学校法人北都健勝学園事業計画書 対象年度: 平成22年度~令和2年度)
公表方法: <a href="https://nur.ac.jp/kikanyoken/">https://nur.ac.jp/kikanyoken/</a>
中長期計画(名称: ) 対象年度: )
公表方法:

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="https://nur.ac.jp/kikanyoken/">https://nur.ac.jp/kikanyoken/</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:
-------

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 医療学部
教育研究上の目的 (公表方法: <a href="https://nur.ac.jp/kikanyoken/">https://nur.ac.jp/kikanyoken/</a> )
(概要) <b>&lt;新潟リハビリテーション大学&gt;</b> 教育基本法及び学校教育法に基づき、「人の心の杖であれ」の精神を礎とした崇高な倫理観を備え、優れた医療人としての厳格さと慈愛を併せもつ全人教育を目指し、わが国の医療分野に貢献することを目的とする。  <b>&lt;医療学部&gt;</b> 豊かな人間性と広い見識・教養・技術を有する医療従事者及び教育研究者の育成を目的とする。  <b>&lt;リハビリテーション学科&gt;</b> リハビリテーション分野において、総合的・学際的な高い能力を養うことを念頭に置いた教育・研究を行うとともに、人間愛や道徳心に満ちた人間としての基本的態度を兼ね備えたリハビリテーションの専門職業人を育成することを目的とする。  <b>&lt;理学療法学専攻&gt;</b> リハビリテーション医療の中でも中核となる理学療法専門分野において、他職種と連携できる幅広い知識・技術・応用力を体系的に培う教育研究を行い、高度で専門的な知識をもち、臨床の場での即戦力と問題解決能力を兼ね揃えた理学療法士の育成を行う。さらには障害者や高齢者だけでなく、疾病予防から健康増進に至るまでの、包括的な能力を兼ね備えた理学療法士の育成を目的とする。  <b>&lt;作業療法学専攻&gt;</b> 心身に障害をもつ対象者に対して応用的動作能力又は社会的適応能力を回復するために行う作業療法の知識・技術を獲得するだけでなく、その人の人生の質(クオリティ・オブ・ライフ)にまで踏み込んで考えることができる作業療法士の育成を目的とする。  <b>&lt;言語聴覚学専攻&gt;</b> 言語聴覚や摂食・嚥下障害及び認知機能についての評価や治療が的確に行えるだけでなく、より広義の言語を介する治療に関する知識を培う教育研究を行い、深く心の対応が可能な言語聴覚士の育成を目的とする。  <b>&lt;リハビリテーション心理学専攻&gt;</b> 医療・保健・福祉及び教育等の領域で用いられる、対人援助の心理学理論と技術を修得・研究し、暮らしと社会の中で、人間相互の理解と共助を積極的に促進し貢献する、高い意志と知識を備えた人物を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<https://nur.ac.jp/kikanyoken/>）

（概要）

卒業認定・学位授与の方針については、本学ホームページにて公開している。

卒業認定については、最終年次に修得単位数を学部教務委員会・教授会にて確認し、卒業要件単位数を満たしている者について、学長が卒業を認定している。

**[卒業認定・学位授与の方針]**

**<理学療法学専攻>**

1. 理学療法士として高い倫理観と持ち、医療従事者としての使命感を自覚し、常に対象者に寄り添うことができるもの。
2. 理学療法士として必要な知識・技術を有し、卒後も常に専門領域の向上と発展に惜しみなく努力を続け、他職種と協働しながら地域の医療・福祉に貢献できるもの。
3. 理学療法士として常に探求を続け、国際的・学術的な視点で理学療法の発展に寄与できるもの。

**<作業療法学専攻>**

1. 作業療法士として高い倫理観を持ち、医療従事者としての使命感を自覚し、対象者の想いに寄り添いながら、対象者にとって意味のある作業を賦活することのできるもの。
2. 作業療法士として対象者をめぐる他職種と協業しながら対象者の地域生活を支え、地域社会に貢献することのできるもの。
3. 作業療法士として必要な知識・技術を有し、卒業後も作業療法へのあくなき探究を続け、国際的・学術的な視点を持ち、作業療法の発展に寄与できるもの。

**<言語聴覚学専攻>**

1. 言語聴覚士として確実な知識と技術、判断力などの能力を身に付けるために今後も努力を続ける十分な意欲がある。
2. 言語聴覚士としての専門領域及び関連する領域の知識・技術の向上や医療の発展に惜しまない努力をして、自己研鑽と言語聴覚学分野の発展及び社会貢献の意識を高く持つ。
3. 医療人、言語聴覚士として、人間とかかわる職業の特殊性と重要性に真摯に向き合っている。すなわち人間の尊厳に対する高い倫理観と豊かな感性、広い視野と温かな心を持ち患者様に寄り添うことができる。

**<リハビリテーション心理学専攻>**

1. 社会人として高い倫理観をもち、他者と自己とのかかわりを自覚し、人間の心に対する深い理解をもって他者に寄り添うことができるもの。
2. 学修してきた心理学的知識・技術を有し、人間が抱える心の諸課題に対し最善の方策を講ずるべく誠意をもって努力し、地域社会へ貢献できるもの。
3. 人間の心と行動について生涯探求し、国際的・学術的な視点で心理学の応用と発展に寄与できるもの。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<https://nur.ac.jp/kikanyoken/>）

（概要）

大学の理念である「人の心の杖であれ」を基本として、確かな知識と技術、深い教養と豊かな人間性を持ち、広く社会に貢献できる職業人の養成に向けた教育課程を編成している。すなわち、幅広い教養と豊かな人間性・自立性・創造性・協調性の修得をめざす「教養分野」、および確かな専門知識と技術の修得をめざす各専攻の「専門分野」を組合せた学士課程教育を提供している。



## [教育課程の編成及び実施に関する方針]

### <理学療法学専攻>

1. 教養分野の導入科目・人文科学・社会科学では医療従事者に必要とされる素養と倫理観を学習し、自然科学分野において基礎的学力の向上を図る編成とする。
2. 理学療法士に必要とされる基礎医学・臨床医学・理学療法の専門分野を体系的に学び、今後、医療・福祉分野で必要とされる知識・技術の修得が可能となるカリキュラム編成とする。
3. 国際的・学術的に理学療法学を学ぶために外国語や研究法を修得し、国際的・学術的に活躍できるためのカリキュラム編成とする。

### <作業療法学専攻>

1. 教養分野の導入科目・人文科学・社会科学では医療従事者に必要とされる素養と倫理観を身につけ、自然科学分野において基礎的学力の向上を図るカリキュラム編成とする。
2. 作業療法士に必要とされる基礎医学・臨床医学・作業療法の専門分野を体系的に学び、今後、医療・福祉分野で必要とされる知識・技術の修得が可能となるカリキュラム編成とする。
3. 臨床実習の科目を、作業療法士としての臨床技能、臨床思考過程を主体的に学び、地域で生活する対象者の支援を学ぶためのカリキュラム編成とする。
4. 国際的・学術的に作業療法学を学ぶために外国語や研究法を修得し、国際的・学術的に活躍できるためのカリキュラム編成とする。

### <言語聴覚学専攻>

**【教養分野】** 社会人として、医療人として、言語聴覚士としての素養を獲得します。

#### **【専門基礎分野】**

言語聴覚学も含めた、全般的な医学・医療に関する専門的な知識と方法論を体系的に学びます。

**【専門分野】** 言語聴覚学の専門知識を基本事項から評価、治療まで実践的に用いることができる知識・技術を修得します。

**【臨床実習】** 医療の全体的な流れを体験的に学び、自ら課題を見出して、知識と技術を駆使して自らの問題を解決する能力を養います。

### <リハビリテーション心理学専攻>

1. 教養分野の導入科目・人文科学・社会科学では、社会人として必要とされる素養と倫理観を学習し、人間と社会を知るための科学的な知識・思考力の修得を図る編成とする。
2. 専門基礎分野では、心理学基礎領域をはじめ、人間の行動を心身両面から科学的に把握することを目的に他領域の知識の修得も図る編成とする。特に医学領域では、他の心理学専攻には類を見ない「解剖学」、「生理学」等の医学系科目をも含む編成とする。
3. 専門分野では、心理学応用領域としての「心理療法」、「産業カウンセリング」、「芸術療法」等、リハビリテーションや治療的介入としての心理学的知識・技術の習得が可能となる編成とする。「臨床実習」では、公認心理師の養成カリキュラムに則った医療・福祉・教育分野等での実習体制を整えている。
4. 学術的に科学としての心理学を学ぶために外国語や研究法を修得し、将来、国際的に広く活躍できるためのカリキュラム編成とする。

（概要）

### ＜医療学部・リハビリテーション学科＞

リハビリテーション分野において地域社会や国際社会に貢献するためには、人間愛や道徳心を持ち、広い視野に立って専門性の高い知識や技術を身につけることが求められ、以下に示す「主体性・多様性」、「知識・理解」、「思考・判断・態度」、「技能・表現」の項目に挙げる内容を重視し入学受け入れを行う。

#### 主体性・多様性

人の心と体を理解するには、弱者を含めた多様な地域社会・国際社会への洞察力が必要となってきます。従って日頃より答えのない問題に自分で答えを見出し、自分の意見を持っていることが重視されます。

#### 知識・理解

大学の授業の土台となる知識として、人文科学、自然科学、社会科学の基礎をしっかりと勉強しておくことが、入学後の学修にとってきわめて重要です。

#### 思考・判断・態度

地域社会・国際社会との関わりにおいては、「人の心の杖であれ」の精神を理解し人間愛や道徳心を持って考え行動することができる人が求められます。

#### 技能・表現

国際的視点に立って専門性のある知識と技能を身につけること、また自己表現力・他者理解力を養う努力を怠らない人が求められます。

### ＜理学療法学専攻＞

理学療法学専攻では、以下のような資質を有する人を積極的に受け入れます。

1. 理学療法における専門的知識や技術を身につけるために十分な基礎的学力（特に国語、英語、理科の学力）を有する。
2. 豊かな人間性や実践的治療技術を養うために不可欠なコミュニケーション能力を有する。
3. 医療従事者として社会の発展に寄与しようとする強い意志を有する。
4. 他者との協調性と他者への思いやりの心を有する。

### ＜作業療法学専攻＞

作業療法学専攻では、以下のような資質を有する人を積極的に受け入れます。

1. 作業療法における専門的知識や技術を身につけるために十分な基礎的学力（特に国語、英語、理科の学力）を有する。
2. 医療の専門職としての自覚を忘れず、常に作業療法専門技術の修得と研究に対する努力を怠らない。
3. 気持ちが不安定になっているリハビリテーション対象者へ精神的援助を与えることができる人またはそのための努力を怠らないひと。
4. 関連する他の医療・福祉の専門職と連携するためのコミュニケーション能力を有する人またはそのための努力を怠らない。

### ＜言語聴覚学専攻＞

言語聴覚学専攻では、以下のような資質を有する人を積極的に受け入れます。

1. 言語聴覚士としての専門性を念頭に入れた基礎学力（特に国語、英語、理科の学力）、コミュニケーション能力を備え、言語聴覚士になるための明確な動機と自ら学ぶ姿勢、強い意思がある。
2. 見えている症状のみならず、背景や人間性にまで視野を広げ包括的に捉える力を磨く努力を続けることができる。

3. 将来、言語聴覚士の仕事に誇りと使命感を持って、社会に対して、地域に対して、世界に対しての貢献に惜しみなく尽力できる。
4. 専門性に興味を持ち、将来は臨床の場や研究の場で、言語聴覚士としての可能性を探求するという意欲を持つ。

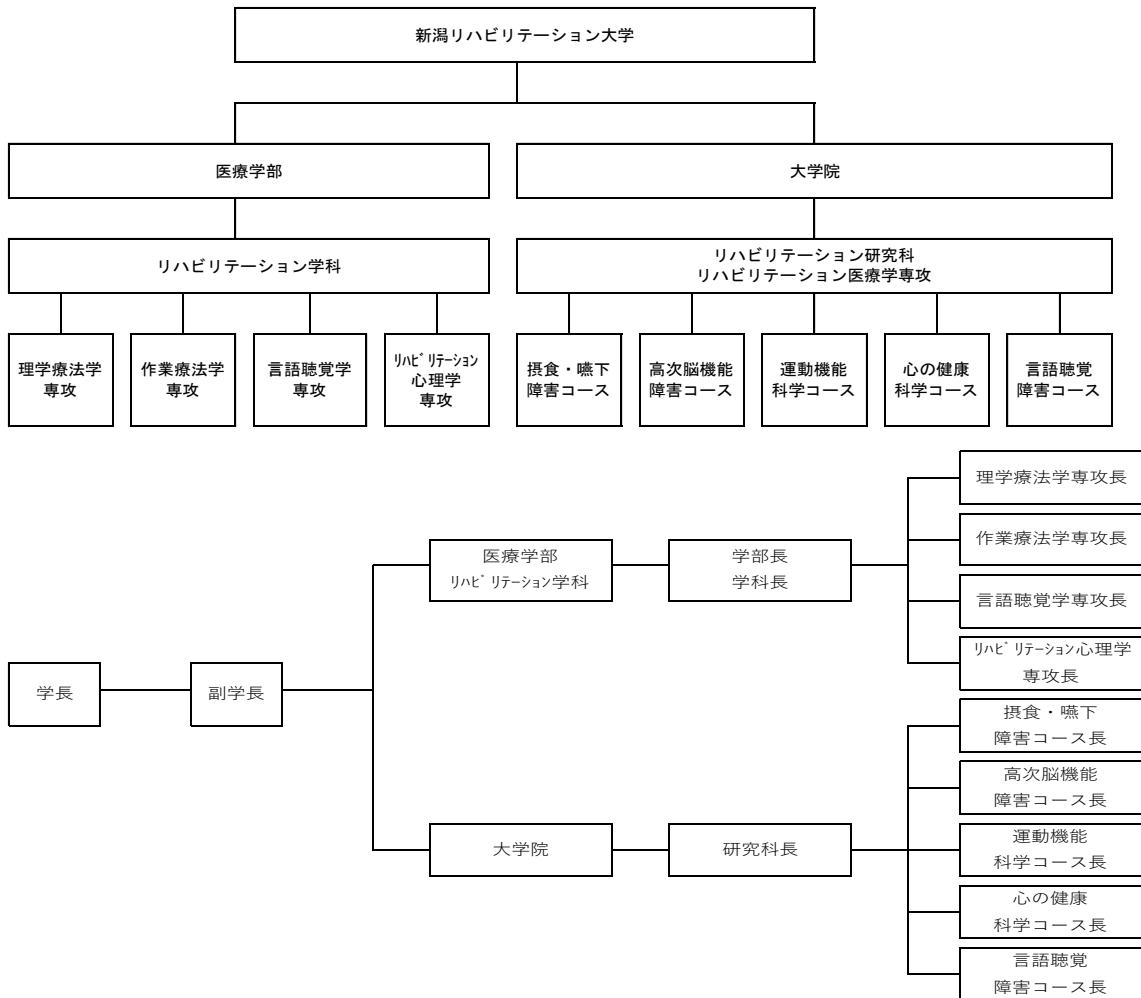
**<リハビリテーション心理学専攻>**

リハビリテーション心理学専攻では、以下のような資質を有する人を積極的に受け入れます。

1. リハビリテーション心理学における専門的知識や技術を身につけるために十分な基礎的学力（特に国語、英語、社会の学力）を有する。
2. 人間の心の原理や多様性に関心があり、心の働きが社会を形成し、また、社会が心に影響を与える関係性について興味・関心をもっている。
3. 人間の心が抱える悩みや疾病によって生じる個人や社会の課題に対して、共感と問題意識をもちながら積極的な貢献を目指す。
4. 自らの心のあり方にいつも意識を向けながら、人間の心の働きを多角的に考え、新たな自分の発見と変化を求めることができる。

**②教育研究上の基本組織に関すること**

公表方法：<https://nur.ac.jp/kikanyoken/>



③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
医療学部	—	9人	4人	11人	5人	5人	32人
		人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長				学長・副学長以外の教員			計
0人				73人			73人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： <a href="https://nur.ac.jp/kikanyoken/">https://nur.ac.jp/kikanyoken/</a>					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
医療学部	75人	65人	86.7%	385人	295人	76.6%	若干人	0人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	75人	65人	86.7%	385人	295人	76.6%	若干人	0人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
	95人 (100%)	5人 ( 5.3%)	59人 ( 62.1%)	31人 ( 32.6%)
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
合計	95人 (100%)	5人 ( 5.3%)	59人 ( 62.1%)	31人 ( 32.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
合計	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) シラバスについては、本学学部教務委員会が作成した「シラバス作成マニュアル」に基づき、授業の方法、授業の内容、年間の授業の計画、到達目標、成績評価の方法・基準、授業時間時間外に必要な学習の内容等について、科目担当教員が作成している。また、実務経験のある教員等による授業科目については、その旨も記載している。作成後のシラバスデータは、システムの年度更新時（3月末）に、学内者のみが閲覧可能なポータルサイト上で公開するのみならず、広く一般の方々が閲覧可能な本学ホームページ上のサイトで公表している。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 授業科目の学修成果の評価については、「取り組む力・知識」、「思考・推論・創造の力」、「コラボレーションとリーダーシップ」、「発表力」、「学修に取り組む姿勢」の5つの評価指標を軸に、試験、レポート、成果発表等、あらかじめシラバスにて明示した評価方法・基準にて、科目担当教員が行っており、その結果をもって単位の授与・履修の認定を行っている。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
医療学部	リハビリテーション学科	126 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： <a href="https://nur.ac.jp/kikanyoken/">https://nur.ac.jp/kikanyoken/</a>
---

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
医療学部	リハビリテーション学科 理学療法学専攻 作業療法学専攻 言語聴覚学専攻	1,000,000 円	350,000 円	400,000 円	その他内訳 施設設備整備費 250,000 円 実験実習費 150,000 円
	リハビリテーション学科 心理学専攻	700,000 円	350,000 円	300,000 円	その他内訳 施設設備整備費 250,000 円 実験実習費 50,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>本学では、入学時よりゼミ制を敷き、導入教育から国家試験対策・卒業論文作成まで一貫してきめ細やかな学生指導を行っている。併せてクラス担任制も導入し、クラス単位で共通の指導を受ける機会を設けている。またここまで以下のような学生の修学等についての支援として以下のような改善を行っている。</p> <p>①授業時間の変更</p> <p>2017年度から9時30分授業開始となり、JR等での通学生にとっての利便性を改善した。2018年度からは9限以降の授業を極力廃止し、ゼミ活動、個人学習の時間とし、自主的学習活動の推進を図った。</p> <p>②初年次教育の改善</p> <p>新入生の学習意欲や就学目標の明確化を図るため、入学前の課題提出やワークショップの参加は以前より義務付けてきたが、さらに平成30年度より、入学直後の宿泊研修を実施し、導入教育の一環として位置付けた。</p> <p>③ICT(Information and Communication Technology)教育の充実</p> <p>入学時よりの情報教育として2つの正規科目外に情報セキュリティー委員会の実施するICT研修会を計6回実施した(情報セキュリティーの重要性について、USB・パソコンのセキュリティーチェック、学内のWi-Fiマナー、メールのマナー、授業動画の見かた等)。</p> <p>④教室利用時間の拡大</p> <p>学生からの意見として、国家試験対策やその他自由に勉強できるスペースの希望が多く挙げられていた。特に講義終了後の学習スペースについては、これまでは図書館を20時まで開館している以外は行っていなかった。そのため、2018年度からはC棟1階のアクティブラーニングエリアの開放時間を拡大し、図書館の開館時間と同様に20時までとした。</p> <p>⑤学生情報共有</p> <p>学生情報については、教務システムにより学生基本情報・授業出席状況・成績情報が検索可能であり、学生面談記録情報や就職活動などのキャリア情報についても教務システムにて一括管理を行っている。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>本学では、学生が自身の進路選択について主体的に考え、行動できるようキャリア支援センターが中心となって進路選択に係る支援を行っている。またゼミ担当教員とキャリア支援センターが連携、情報共有し、就職に関する相談や面接指導等、様々な学生のニーズに対応をしている。</p>

2019年度は、1年生を対象としたキャリア支援活動として、自身の適性に関する講演会を行った。2年生対象では、ストレスとの付き合い方について、3年生対象では、就職活動に向けた自己理解、履歴書の書き方、面接指導講座等を行い、自身の進路やキャリア形成について学生自身が考え、実践できるよう計画し、実施してきた。また、4年生については、大学独自の就職説明会を企画し、実施した。それぞれの学生が自身の進路として就職先について考え、就職活動に向けて活動をすることができた。また、理学療法学専攻、作業療法学専攻、言語聴覚学専攻は国家試験受験対策も行き、2019年度は、各専攻が連携協力しながら、実効性のある教育指導を着実に推進し、成果に繋げていくよう推進した。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

指導教員と担当学生が定期的に面談を行っており、面談結果については学習センターが中心となり学習面、生活面について状況を確認・管理し、問題点については必要な支援を行えるよう大学全体で対応している。また、必要があれば外部カウンセラーとの面談を推奨するなど、多様な学生がそれぞれを尊重し、各自の目標へ向けて前進していけるような環境を整備している。

また、保健室が中心となり、年1回の定期健康診断を実施し、学生の健康管理を行っている。

さらに、大学併設のクリニックにおいて、各種感染症の予防接種や、抗体価検査なども実施している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：[https://nur.ac.jp/about/public/disc\\_edu/](https://nur.ac.jp/about/public/disc_edu/)